

2020年度教育研究活動報告用紙(様式9)

氏名	飯野 祥之	職名	助教	学位	修士(看護学)(九州大学 2012年)
----	-------	----	----	----	---------------------

研究分野	研究内容のキーワード
成人看護学 看護教育学	看護基礎教育 臨床判断 アクティブラーニング

研究課題
看護学生の臨床判断力向上を目指した研究。

担当授業科目
成人看護学演習(前期 看護学科) 成人急性期看護学実習(後期 看護学科) 成人慢性期看護学実習(後期 看護学科)

授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
<p>授業科目名【 成人看護学演習(前期 看護学科) 】</p> <p>=看護過程=</p> <p>慢性期・急性期の看護過程事例について、Classroom を用いた演習展開方法の検討に参加した。Web 上での講義やグループワークとなるため、学生との双方向性を保てるようにグループワークの meet を随時教員が巡回して指導を行えるように構成した。実際の演習においては、基本的な看護過程の展開の仕方や記述の仕方の理解を丁寧に説明することを心掛けた。アセスメントの視点がずれている場合が多かったため、各パターンのアセスメントの視点をかみ砕いて説明するとともに、アセスメントに必要な指標についても提示を行った。</p> <p>=技術演習=</p> <p>術後の患者観察についての実技演習に指導、テストの評価をするために参加した。手術や病態について学生の知識の及ばないところはこちらから提示するとともに、既習の知識については教員側から積極的に問いかけ、記憶の想起や知識の深化・定着に努めた。また、術後患者の観察について、初回の説明時にかみ砕いて説明するとともに根拠を説明し、実技練習の際にその根拠を問いつながりながら演習を進めた。</p> <p>臨地実習における『指導者への報告』について講義の構成・実施を行った。報告の枠組みとして I-SBAR を用いることで、報告の構成を考えやすくなるよう工夫した。報告の際に何を報告する必要があるのか、自分の伝え方で伝える必要があることが伝わったのかなどを考えるきっかけになるように、グループワークで実際に報告を行いそれについて振り返り用紙を用いてリフレクションを行った。</p>
<p>授業科目名【 成人急性期看護学実習(後期 看護学科) 】</p> <p>臨地実習から遠隔での学内実習に移行したことにより、模擬患者にて看護実習を展開することとなったため、事例の作成や実習内容の検討を行った。</p> <p>術後侵襲における生体反応、整形外科手術、心臓外科手術、術後全身管理について事前学習内容を明確に提示して、術後の早い看護展開についていけるように学習を促した。また、術後の患者状態の理解を促すために、患者状態の説明をかみ砕いて行った。また、術後の変化やケアについて説明し、教員も一緒に観察やケアに入るようにして学生の理解力、看護技術の習熟度の把握に努めた。</p> <p>看護過程についての理解が進んでいない場合が多かったため、看護過程の各セクションの書き方や視点などについて学生の進行に合わせて説明を行った</p>

授業科目名【 成人急性期看護学実習（後期 看護学科） 】

臨地実習から遠隔での学内実習に移行したことにより、模擬患者にて看護実習を展開することとなったため、事例の作成や実習内容の検討を行った。臨地実習での患者とのやりとりや清拭・患者移動などの看護技術を体験できるように、実習内容にコミュニケーションの時間や清拭の実施などを組み込んだ。

学 会 に お け る 活 動

所属学会等の名称	役職名等（任期）	加入時期
日本看護研究学会	一般会員	2010年7月～現在に至る

2020年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共 同 研 究

研 究 題 目	交付団体	研 究 者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個 人 研 究

研 究 題 目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備 考

社 会 に お け る 活 動 等

団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等	任 期 期 間 等

学 内 に お け る 活 動 等（役職、委員、学生支援など）

2年次アドバイザー(2020. 4.1～2021. 3.31)
研究推進委員(2019. 4.1～現在に至る)